

1 年

1 学期の成果と課題	
1 生活指導全般	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日頃から情報交換を行い、保護者対応や適切な生徒指導ができた。 ○ 家庭連絡や訪問など担任を中心にチームで行い、不登校の人数を少なく抑えることができた。 ○ 教員の指示で動く生徒が依然として多いが、少しずつ周りを見て行動できる生徒が多くなってきた。 △ あいさつや時間を守るなどの基本的な生活習慣は概ね定着していると思われるが、できていない部分もある。 ◆ 心ない言動でトラブルを起こす男子。同性同士の間人間関係をうまくできずに引きずる女子。などのトラブルが多かった。
2 学習指導全般	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登校時間や授業のチャイムスタートは概ね意識付けられている生徒が多い。 ○ 忘れ物が少なく授業準備もスムーズ。学習規律を大きく乱す生徒はいない。 △ 家庭学習（自学ノート等）をきちんと取り組んでいるのか不明。 ◆ 学習成績に大きな差が生じている。
3 特別活動全般	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遠足やレクレーション大会を通じでリーダーを動かす機会があり、生徒に役割を持たせ、行事を成功させることができた。 ○ リーダー以外の生徒も、指示を聞きながらも積極的参加が見られた △ 2分前行動やあいさつ、号令などの日常の取り組みを行ってはいるのだが、もう少し徹底できたはず。 ◆ 難しいことではあるが、行事と日常との乖離があるのかリーダー性を育て切れていない。

2 学期以降の重点指導項目
<p><生活>・生徒自らが考え行動できることを促すような、声かけやリーダーによる取り組みを継続して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある言動、責任ある言動、をさまざまな場面で伝え、意識付けを行う。 ・リーダー会の取り組みに際し、教師のサポートを加えていく。 ・部活動の積極的参加を促していく。 <p><授業>・家庭学習の取り組みについて再度確認し徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低学力の生徒を中心に授業や、テスト前など個別の支援を行う。できたときの達成感を味あわせたい。 ・学習コンテストなどを通じで全体としての底上げを行う。 <p><特活>・リーダー会の取り組みに際し、教師のサポートを加えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の役人を担う生徒が出てくるなど、学校の柱の一つであるという意識を醸成していく。

2 年

1 学期の成果と課題	
1 生活指導全般	<p>○対話を大切にしようとしている生徒は昨年度より増えてきている。 ▲今年度の目標である自らの想いを伝える部分においては、まだまだできていない生徒が多い。</p> <p>○時間を意識して行動する生徒は、学習と連携して進めたことで昨年度より増えてきている。 ▲授業準備はできつつあるものの、落ち着いてチャイムを聴くことはできていない。</p>
2 学習指導全般	<p>○多くの生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 ○推進委員と連携して、チャイムスタートの取り組みを行い、時間を守る意識を高めることができた。 ▲学習意欲が低く、授業に参加できない生徒が一部見られる。学習コンテストなど自己肯定感を高める取り組みを行う。 ▲提出物が滞る生徒が一部見られる。自分で締切を設定し、自分で取り組むことができる手立てを支援することが必要である。 ▲基礎基本を身につけていない生徒に対して、個別の支援が必要である。 ▲家庭での学習習慣づくりと自学ノートの取り組みが繋がっていない部分が見られる。2学期以降の再検討が必要である。</p>
3 特別活動全般	<p>○号令の取り組みなど、推進委員が学級や学年全体の現状から必要な課題を考え、改善するための企画を実践できている。 ○一部の推進委員はリーダーとして考えて行動できる力がついた。 ○ほとんどの生徒が行事に前向きに参加することができた。 ▲現在リーダーとして動いている人以外に新たなリーダー、フォロワーが育ってきていない。 ▲一部の推進委員はリーダーとして意識して行動できなかった。</p>

2 学期以降の重点指導項目
<p><生活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 学期に引き続き、様々な場面で聴く姿勢と視線、さらに自らの想いを自らの言葉で伝えることを意識させていきたい。 ・ 授業という時間を大切にするためにも、2 学期もチャイムを静かに聴くことを意識させる。 <p><学習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で計画的に自分を高める習慣をつけさせたい。そのために、自学ノートカレンダーや忘れないゾウの活用を進める。 ・ 基礎基本の習得のため、提出課題を設定している。課題に取り組む意識付けのために、締切前の周知などの手立てや提出目標の相談など個別の支援を行う。提出できたときの認めも個別に行う。 <p><特活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画の中で推進以外の人にも巻き込んだリーダー、フォロワーを育てられるような企画を考える。 ・ 学校を中心としての意識を学年全体で高めていけるよう、集会や日常生活での声かけや掲示を行う。

3年

1学期の成果と課題	
1 生活指導全般	<p>概ね落ち着いた様子で学校生活を送ることができた。</p> <p>○「自問清掃をねらいに沿って取り組んでいる」が微増している。全員にねらいや目的が浸透するまでには至らないが、静かに取り組める生徒が増えてきた。</p> <p>▲さらに落ち着いた学校生活が送れ、社会性を高めていけるよう意識付けができるよう声掛けを継続し、時間を守ることや気持ちのよい挨拶ができるようにしていきたい。また、行事をうまく利用しながら自主性や協調性、規範意識を高めたい。</p>
2 学習指導全般	<p>○授業規律は以前よりも改善の傾向にある。</p> <p>○「授業はわかりやすい」「道徳の授業で自分の考えを持ち、他の生徒の意見を聞いて考えが深まったことがあった」の項目は高い水準を維持している。</p> <p>▲家庭学習の取り組みについては、例年よりも低下傾向にある。計画的な家庭学習に至っておらず、取り組み時間の減少も顕著である。家庭での取り組みへのサポートを充実させたい。</p>
3 特別活動全般	<p>○「自分にはよいところがある」と思っている生徒が昨年度より微増している。</p> <p>○推進委員が学級や学年全体の現状から必要な課題を考え、改善するための企画を実践できている。また、運動会の団長・エールリーダー等中心に、最上級生としての意識・自覚が広まってきた。</p> <p>▲最終学年として前に立つ場面で多くの生徒を立たせ、認める・ほめる場面を多く作り、さらに自信を持って行動できるように意識させたい。</p> <p>▲推進委員の企画期間が終わると意識が薄れ、元に戻る生徒が多かった。リーダーが継続して声掛けできるようにするために、サポーターとなる生徒を育て、支える体制を整えたい。</p>

2学期以降の重点指導項目
<p><生活> 集会などで、自問の振り返りを行い、より良い清掃活動につなぐ。</p> <p><授業> 計画的な学習を推進し、家庭学習の充実をはかる。</p> <p><特活>行事などを通して、生徒の成長や良さを認め、褒める場面を積極的につくる。</p>

教務部（中間評価）

<p>生徒、保護者、職員のアンケート結果</p>	<p>【教職員】 ※いずれも肯定的評価の数値 () はR4の中間・年間評価時の数値 (1) 本年度の重点目標を意識して、学校運営に参画している。 … 91% (中:88% 年:84%) (2) 各種会議が情報交換と課題検討の場として有効に機能している。 … 93% (中:88% 年:82%) (5) 最終退校時刻(19:30)を意識して業務に取り組んでいる。 … 80% (中:81% 年:81%) 「重点目標」を意識した運営参画、「会議」の有効性が昨年度の年間と比べ増加、いずれも「当てはまらない」という回答は0%であった。「最終退校時刻」は微減、「当てはまらない」という回答は5%(2名)であった。</p> <p>【生徒】 (1) 学校が楽しい。 … 85% (中:85% 年:85%) 内訳 1年81(中:88 年:86)% 2年82(中:80 年:82)% 3年87(中:87 年:88)% (18) 学校からのお知らせや各種たよりを確実に保護者に渡している。 … 80% (中:78% 年:77%) 内訳 1年84(中:78 年:75)% 2年79(中:77 年:75)% 3年76(中:78 年:81)% 同生徒の変移で見ると現3年は「楽しさ」が微増ではあるが増加し続けている。「各種お便り」に関してはほぼ変化なしである。</p> <p>【保護者】 (1) お子さんは安心して学校生活を送っている… 94% (中:93%年:94%) 内訳 1年94(中:94 年:94)% 2年93(中:93 年:95)% 3年94(中:93 年:94)% (8) 各種たより、ホームページ、PTA行事などから学校の様子がわかる … 80% (中:78% 年:81%) 内訳 1年83(中:78 年:80)% 2年78(中:78 年:77)% 3年78(中:78 年:87)% 同生徒の変移で見ると現2・3年は「安心」「学校のように」ともにほぼ変化なし。</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【重点目標】 昨年度より7%上昇したが、周知がまだまだ不十分。 【各種会議】 週の授業時数の平均値と会議の機能性は関係ないことは昨年度明らかになった。クロームブックの活用(事前に資料に目を通す、印刷時間の削減)は効果があった。今後はさらなる会議の在り方を検討していく必要がある。 【楽しい・安心】 生徒の「楽しい」は各学年によって増減は異なる。保護者の「安心」は高い数値を維持も双方「全く当てはまらない」は0%ではない。また、生徒の回答と保護者の回答との差が生じる理由も検討していく必要がある。 【情報発信】 生徒が配付物を渡さず、保護者へ学校情報が届いていない現状が見いだせる。メール配信、ホームページでの連絡をこれまで以上にうまく活用していきたい。 【最終退校時刻】 否定的評価が5分の1弱を占めている。取組を考える必要がある。</p>
<p>2学期以降の重点項目</p>	
<p>○各学年・分掌で「重点目標」を意識した活動となるよう周知・確認する ○<u>会議は1時間以内</u>の徹底を図り、今後も継続していく。 ○「認め方」「ほめ方」を共有し、生徒の自己有用感の向上を図る。 ○配付物の重要性について、各学年で意識の共有を図り、朝終礼で確実に指導を行う。 ○「なくす・減らす」だけでなく「変える」視点を各分掌・学年での取り組みに入れていく。 2学期はこれまで以上に「報連相、期限を守る」といった組織的対応を重要視することで業務削減を果たす。</p>	

<p>生徒、保護者、職員のアンケート結果</p>	<p>【教職員】 学習規律に関する項目、学び合いに関する項目は高い水準であり、授業改善に関する意識も高い。しかし、「まとめや振り返りを自分の言葉で文章に書かせている」の項目では8割に届かない。また、家庭学習に関する項目では昨年度より微増しているが、5割に満たず低い水準のままである。道徳やキャリア教育に関する項目については昨年度と大きな変化は見られない。</p> <p>【生徒】 学習規律に関して教職員同様高い水準である。新設の認め合いの項目は肯定的数値が88%と高い数値である。しかし、根拠や理由をつけて説明する項目では、昨年度より数値を落としている。家庭学習に関する項目では、計画を立てて学習に取り組んでいるかについては肯定的回答が47%と低く、学習時間についてボリュームゾーンは30分～1時間未満となっている。道徳に関する項目では他の生徒の意見で自分の考えが深まっていると感じている生徒が87%と、概ね満足しているという結果である。</p> <p>【保護者】 教職員や生徒とほぼ変わらない結果であった。</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【学習指導】 ○授業規律は守られており、落ち着いた授業がなされている。 ○授業全体でのねらいを達成するための「個→ペア・グループ」という流れが定着しており、見通しをもって授業に臨むことができている。 ○先生方の授業をよりよいものとしようという意識が高い。ICTの研修や、授業を見る機会を増やしたことも関連しているのではないかと。 ○授業内で、互いを拍手や言葉などで認め合っている。授業の中で「認める」場面を先生方が意識して設けることが功を奏している。 ▲理由や根拠を加えて表現することについて ①先生側は昨年度と変わらず授業内で指導しているが、生徒側の意識が低下している。授業内で理由や根拠を加えて表現することへの「意識付け」そして、「継続した声かけ」、理由や根拠を加えて表現できたことについての「認め」「価値付け」が改めて必要。 ②生徒同士の認め合いについて、相手を認めることができているが、適切な理由や根拠などをつけたレスポンスを返すことが不十分である。互いの意見をしっかりと聴き合い、意見をつなげていくことが必要。 ▲まとめや振り返りを書かせる授業の終末での時間が取れていない。タイムマネジメントを意識した授業をする、もしくは振り返りを単元末にまとめて取るなどする。 ▲計画的に家庭学習に取り組んでいる意識が低い。現在取り組んでいる「忘れないぞう」にその日の家庭学習内容を記載することを継続する。教室での声かけを継続し、生徒への意識付けを図りたい。 ▲学習時間が不足している。授業で、家庭学習や自学の内容について触れたり、家庭学習用のプリントを渡したりなどして具体的な学習内容の提示や、意識の高揚を図る。</p> <p>【キャリア教育】 ○事業所体験を行ったことで、2年生は将来の職業について考える機会を多く得ることができた。 ▲事業所体験はその実施にあたって教員の負担が大きく、本年と同程度の活動を行うのであれば、様々な再検討を行う必要がある。</p> <p>【道徳・人権教育】 ○年間指導計画を基に各学級の実情に合わせて授業を行うことができている。 ▲道徳の授業改善や評価に関して、職員会議等での提案が適宜必要である。</p> <p>【情報教育】 ○授業で単なる提示装置としてのみではなく、生徒の思考のためのツールや、意見を共有するためのツールとして用いられることが増えた。また、クロムブックの効果的な活用方法について、教員間で情報交換を図ることが恒常化しつつある。 ○クロムブック利用上のルールや日中の保管場所等を見直し、必要な時にすぐに取り出せるようにしたことで利便化を図ることができた。休み時間や授業中における生徒の不適切な使用についても、改善傾向にある。 ▲今年度新たに始まった「DQ World」の導入、実施がスムーズにできなかった。</p> <p>【図書館教育】 ○2年生・3年生の図書館利用が多く、一学期の貸出冊数は昨年度を上回った。 ○授業での図書館利用では、1年国語や3年総合で、授業担当者と連携しながら、資料提供・利用指導を行うことができた。 ▲学校評価の生徒アンケートで「読書が好きである」の、「よくあてはまる」と「あてはまる」の合計が67%で、昨年度より8ポイント下降した。(1年:64%、2年:69%、3年:69%、昨年度は全学年75%)</p>

2学期以降の重点項目

- ・お互いに「聴き合う」ための指導・意識付け（友達の見解も手にもものを持たず・体を話者に向ける等）
- ・家庭学習充実のため毎日の学習内容を立てさせることを徹底
- ・

生徒指導部（中間評価）

<p>生徒、保護者、職員 のアンケート結果 より</p>	<p>※数値は肯定的回答，（ ）内は昨年度の数値</p> <p>【生活規律】 T「生徒はルールや決まりを守って学校生活を送っている」70% C(75%) S「学校のルールや社会のマナーを意識して、過ごしている」92% A(94%)</p> <p>【あいさつ】 T「生徒は、自分から挨拶や会釈ができる。」53% D(34%) S「自分からあいさつをしている。」79% B(81%) P「お子さんは、自分から挨拶を心がけて行っている」76% B(77%)</p> <p>【対応・相談】 T「不登校の生徒に対する指導が組織的・効果的に行われている」81% A(85%) T「生徒理解に努め、生徒や保護者に寄り添った声かけや対応を行っている」100% A(100%) S「学校には、悩みを相談する先生や大人がいる」59% D(61%) P「学校は、保護者からの連絡や相談に誠実に対応している」87% A(87%)</p> <p>【自問清掃】 T「自問清掃は、生徒の自主性・自発性の育成につながっている」38% D(52%) S「自問清掃をねらいにそって取り組んでいる」79% C(78%)</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【生活規律】 △生徒はルールや決まりについて意識はしているが、それを守っているとは言い難い。 ○生徒のマナーに関する地域の方からの苦情電話はここ数年で大幅に減少している。</p> <p>【あいさつ】 ○職員の数値は過去3年間で最も高い数値となっている。 △職員と生徒・保護者の数値に依然として大きな差がある。</p> <p>【対応・相談】 ◎生徒や保護者に寄り添った声かけや対応は昨年度から続いて100%を維持している。この成果は、保護者対応のトラブルが大幅に減少していることから体感できる。 △生徒の「悩みを相談できる先生や大人がいる」の結果の向上を目標に取組を実施してきているが、数値は低いままである。</p> <p>【自問教育】 △職員の自問清掃に関する項目で、大幅なダウンが見られる。自問教育の形骸化が見られる。</p>

<p>2学期以降の重点項目</p>	
<p>【生活規律】</p>	<p>・生徒会を中心に、生徒による学校の決まりの見直しを図る取組を実施する。 （靴下の長さ、かばんのキーホルダー等）</p> <p>【あいさつ】</p> <p>・生徒会や委員会によるあいさつの取組を計画・実施する。</p> <p>【対応・相談】</p> <p>・不登校傾向の早期対応を充実させる。（※連続欠席3日目での生徒への働きかけ。） ・スクールカウンセラーの勤務日や利用方法を生徒・保護者に周知できるようにする。</p> <p>【自問清掃】</p> <p>・自問集会等を活用した自問の全体指導の機会を設定する。</p>

特別活動部（中間評価）

<p>生徒、保護者、職員 のアンケート結果</p>	<p>【T】生徒が有用感・達成感を得られるように、行事などの指導を工夫している。 肯定的意見 90%（昨年度93%）</p> <p>【S】生徒会活動（委員会や学級会）に関心を持ち、進んで参加している。 肯定的意見 66%（昨年度72%）</p> <p>【S】将来の夢や目標を持っている。 肯定的意見 58%（昨年度64%）</p>
<p>成果と課題</p>	<p>○教員のアンケートでは、指導の工夫をしていると出ているが、生徒の回答ではそれほど有用感・達成感はないのではないかとと思われる。</p> <p>→生徒の意見を聴き、生徒が自主的・自発的・自治的に企画・運営ができるような場を定期的に設ける必要がある。 →各学級で学級会を行うようにする。</p>

2学期以降の重点項目

運動会や合唱コンクールをはじめとして、日常的なところでも学級会を開き、自治的に問題解決を行おうとする時間を設ける。その場の話し合いだけでなく、学級会を受けてその後の生徒の動きにも目を配り、事後指導をしていくことで、自治的に集団を形成していく感覚を持たせる。